

日本史

▼2026年度入試大問別出題分野

入試区分	大問	出題分野	出題内容	設問形式	難易度	頻出度
特別 奨学生 入試	I	原始・古代の 政治史・外交史・ 文化史	A. は縄文時代の人びとの生活、B. は飛鳥時代～奈良時代の仏教をテーマとした大問である。3. 縄文時代や弥生時代の遺跡については名称や所在地を整理しておこう。7. 「健甕の制」は桓武天皇の事績である。8. 厩戸王（聖徳太子）が隋の煬帝に送った国書の内容である。仏教史は本学では頻出のテーマなので事前の対策が求められる。	空欄補充 正誤問題 史料問題 (10問)	標準	○
	II	中世の 政治史・文化史	A. は鎌倉幕府滅亡～南北朝動乱までの政治、B. は室町時代の庶民文化や伝統芸能をテーマとした大問である。1. 「建武式目を発表」したのは足利尊氏であり、後醍醐天皇の建武の新政とは関係ない。3. 「北条早良」は執権ではなく戦国大名である。室町時代の文化については、ジャンルごとに創始者や大成者を押さえるようにしよう。	空欄補充 正誤問題 (10問)	標準	◎
	III	近世の 政治史・外交史	A. は江戸幕府による南蛮貿易～鎖国の完成、B. は江戸幕府と朝廷の関係をテーマとした大問である。5. 琉球の謝恩使と慶賀使、朝鮮の通信使については混同しやすいので注意したい。8. 歴代の女性天皇の事績を問う配列問題だが、「持統」→「元明」→「称徳」の順番である。10. 「下田・箱館を開港した」のは日米和親条約である。	空欄補充 正誤問題 (10問)	標準	○
	IV	近代～現代の 政治史・経済史	A. は大正時代の二度にわたる露臺運動、B. は戦後復興期の経済政策をテーマとした大問である。2. 「高橋是清」は二・二六事件により暗殺されている。5. 「男女」ではなく男子に普通選挙権を与えた。7. ～10. は戦後の経済史から出題されており、この分野にまで手が回っていないかつて受験生には、やや難しく感じられたかもしれない。	空欄補充 正誤問題 (10問)	やや難	○
入試区分	大問	出題分野	出題内容	設問形式	難易度	頻出度
一般入試 前期	I	古代の 政治史・外交史・ 経済史	A. は飛鳥時代の律令国家の建設、B. は平安時代後期の律令体制の崩壊～荘園の拡大をテーマとした大問である。2. 天智天皇は670年に最初の戸籍となる庚午年籍を作成した。4. 「藤原京に遷都した」のは持統天皇である。8. 「尾張国郡司百姓等解」は受領の藤原元命を訴えた願頭書であり、史料問題で頻出なので内容を確認しておこう。	空欄補充 正誤問題 史料問題 (10問)	標準	◎
	II	中世の 政治史・外交史・ 文化史	A. は保元・平治の乱と平氏政権の確立、B. は鎌倉仏教の誕生と展開をテーマとした大問である。3. 平氏政権は朝廷内の官職を独占したものであり、独立した幕府を開いたわけではない。6. 8. 鎌倉仏教の開祖は必ず正答できるようにしたい。本学では仏教史は定番なので、宗派ごとに開祖・著作・教義をセットで覚えるようにしよう。	空欄補充 正誤問題 配列問題 (10問)	標準	◎
	III	近世の 政治史・文化史	A. は江戸幕府の機構、B. は蘭学の発展をテーマとした大問である。1. 「安土城下町に家市令」を出したのは織田信長である。4. 「株仲間解散を命じた」のは「田沼意次」ではなく水野忠邦。7. 「朱子学を正学」とする寛政異学の禁は松平定信の事績となる。江戸の三大改革は本学でも毎年出題されており、事前の対策は必須である。	空欄補充 正誤問題 (10問)	標準	○
	IV	近代～現代の 政治史・外交史	A. は大日本帝国憲法の制定～初期議会、B. は戦後日本の外交をテーマとした大問である。5. 下関条約とポーツマス条約の内容は最重要なので確認しておこう。6. ソ連と東欧諸国が結成したのはワルシャワ条約機構である。戦後の外交史については、主要な内閣ごとに外交上の事績（条約など）を整理しておくことが有効な対策となる。	空欄補充 正誤問題 配列問題 (10問)	標準	○

日本史 学習対策

問題形式はマークセンス式の 4 択問題である。また、2026 年度入試の問題構成は、大問数が 4 題、問題数が 40 問となっている。難易度については、細かな知識を問う問題はほとんど見られず、教科書レベルの基本的な知識があれば十分に対応することができる。総じて受験生にとっては解答しやすい難易度の問題であるといえるだろう。以下、本学の日本史の形式面・内容面にもう少し具体的に触れ、対策について述べていきたい。

まず、形式面であるが、先述のようにマークセンス式の 4 択問題となっており、空欄補充や正誤問題の設問形式が中心となっている。また、過去には地図上の位置や出来事の時期を問う問題などが出題されたこともある。正誤問題については、内容や時期が明らかに誤りと分かる肢が含まれていることが多く、不正解の肢を切りやすいので消去法での解答も容易だろう。また、史料文を用いた問題も例年出題されているが、いずれも教科書などに掲載されている有名な史料なので、日頃の学習では史料文にもしっかりと目を通して書かれている内容を理解しておこう。

大問数は近年は 4 題が続いており、2026 年度も大問 4 題であった。また、問題数は例年 40 問となっており、2026 年度も 40 問の出題であった。解答時間は 2 科目選択で 120 分、または、1 科目選択で 60 分（一般入試前期 B 方式）となっているので、比較的余裕をもって問題を解くことができるだろう。余った時間は必ず答案を見直して、時間を有効に活用しよう。また、日本史が不得意な受験生も試験時間は十分にあるので、解ける問題を優先的に解きつつ焦らず取り組んでもらいたい。

次に、内容面を見ていくと、難易度は先述のようにほとんどが基本的な問題であり、教科書を中心にしっかりと学習していれば満点に近い点数を取ることも十分可能である。他の科目が苦手という受験生は日本史で高得点を目指して、他教科の分もカバーしていこう。

また、分野は政治史や外交史、経済史、文化史などから出題されており、時代は古代から近現代まで一通り出題されている。分野・時代ともに満遍なく出題されているので、受験生は全範囲を学習することが求められる。ただし、出題の比重を見ると政治史や外交史が大きいので、まずはその分野の学習を優先的に進めてもらいたい。政治史・外交史を軸として、古代から戦後までの一連の流れを整理しながら学習することが大事である。ただ、そうはいつても何から始めたらよいか見当がつかない受験生もいると思われるので、以下に本学の日本史で狙われやすい重要項目を列挙しておく。主に政治史と外交史（一部、文化史も）の要点をまとめてあるので学習の参考にしてもらいたい。

時代	内容
古代	① <u>周辺国家との外交史</u> 中国との朝貢関係や朝鮮半島との交流が特に重要。それぞれの時期の日本の政権名や中国・朝鮮半島の国名にも注意。 ② <u>奈良時代・平安時代の政治史</u> 藤原氏の政界進出～摂関政治、院政、平氏政権～源平の争乱が頻出。
中世	① <u>鎌倉幕府・室町幕府の成立史</u> 源氏政権→執権政治→建武の新政→足利政権など各政権で主導権を握っていた人物に焦点を当てて理解する。 ② <u>室町時代の農民一揆</u> 正長の土一揆、播磨の土一揆など各一揆の年代や内容だけでなく、史料文についても確認しておく。 ③ <u>織豊政権の政策</u> 織田信長の楽市・楽座、豊臣秀吉の太閤検地やバテレン追放令などの諸政策について整理しておく。
近世	① <u>江戸時代の文化史</u> 思想史（儒学、国学、民衆の思想など）や芸能史（歌舞伎など）から出題されている。また、著作名や著者名なども頻出。 ② <u>幕末の外交史</u> ペリー来航前後の外交史に特に注意すること。日本に来航した外国人（ラクスマン、レザノフ、ビッドル、プチャーチンなど）や来航地（根室、長崎、浦賀など）については確実に得点できるようにする。
近代	① <u>明治政府誕生から国会開設まで</u> 自由民権運動を中心とした政治史が特に重要。政府の財政難→士族の不満と西南戦争→自由民権運動→国会開設。これらの流れを点ではなく、線で理解し覚えるようにする。 ② <u>協調外交、積極外交、十五年戦争</u> 中国や朝鮮との関係を当時の内閣を中心として学習すること。特に幣原喜重郎の協調外交は頻出。

戦後	① <u>人物史</u> 渋沢栄一、津田梅子、浜口雄幸、幣原喜重郎、岸信介などを 上げた大問が過去に出題されている。歴史上の人物がい つ、どこで、何を成したか、といった視点で学習することが求 められる。
----	--

以上が学習するうえで特に気を付けてもらいたい分野である。ただし、当然ながら上記の内容のみから出題されるわけではないので、全範囲を偏りなく学習することが本学の日本史で合格ラインに達するためには必要である。また、日頃の学習に際しては、基本的な用語の習得をしっかりと心掛けるようにしてほしい。細かな用語を必死に覚えようとするのではなく、教科書や用語集に掲載されている太字の用語を確実に理解・暗記し、過去問などの問題演習を通じて何度も問われている用語をミスなく得点できるようになることが大切である。

ここまで読んでいただいた学習対策や出題内容を学習の指針としてもらえれば幸いである。最後に、皆さんが本学の日本史を攻略して合格を勝ち取ることを祈っています。